

トラック輸送情報（平成15年11月分）

平成16年 1月28日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

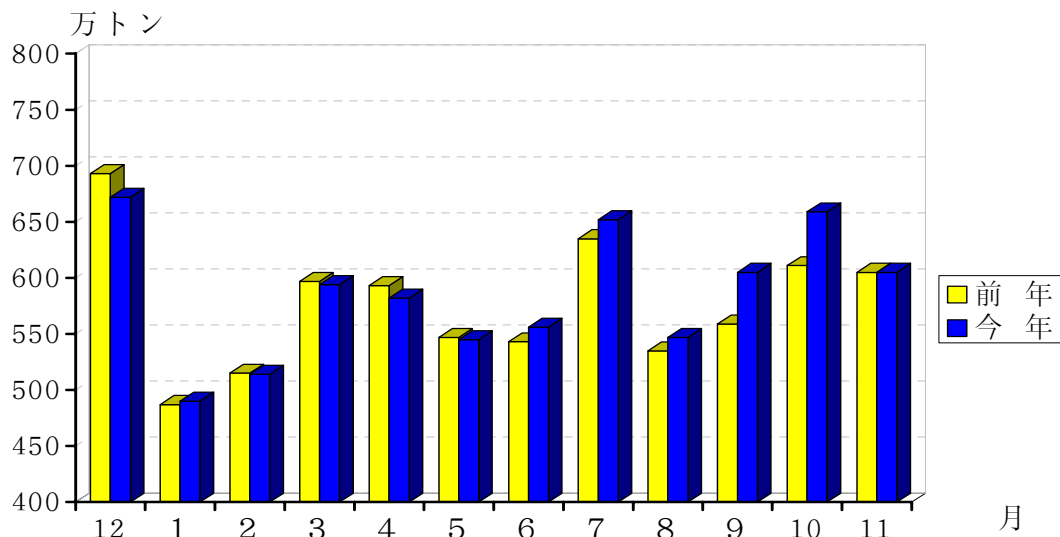
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の輸送状況

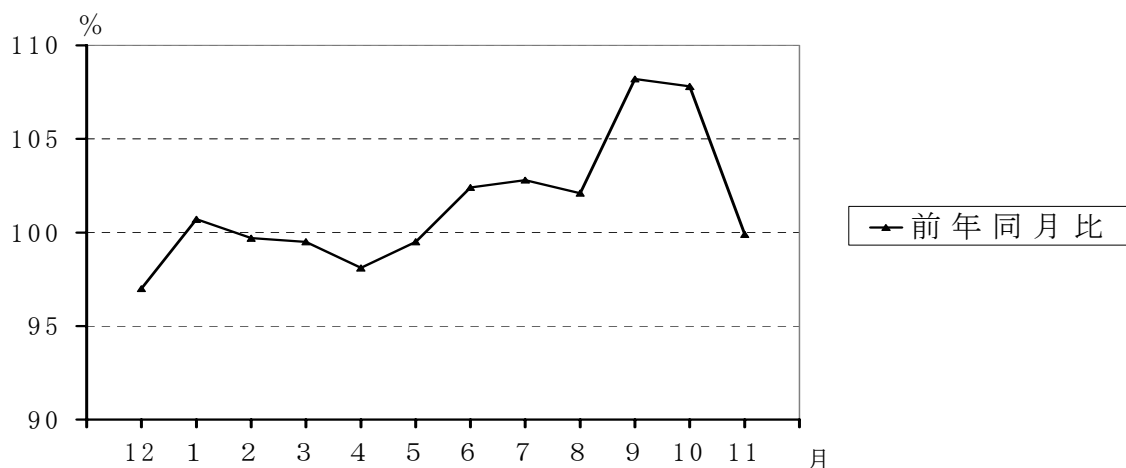
調査対象26社の本月の輸送量は6,050,395トンで、前月と比べ、総輸送量が約54万トン減少したため、前月比 91.8%（季節調整済み 94.8%）、前年同月と比べると、約0.5万トン減少したため、前年同月比 99.9%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、22.8日で、前月と比べ、2.5日の減少、前年同月と比べると、0.8日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、265,368トンで、前月と比べ、約0.5万トン増加したため、前月比101.9%、前年同月と比べると、約0.9万トン増加したため、前年同月比103.4%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

(図1-1) 26社の輸送トン数の推移



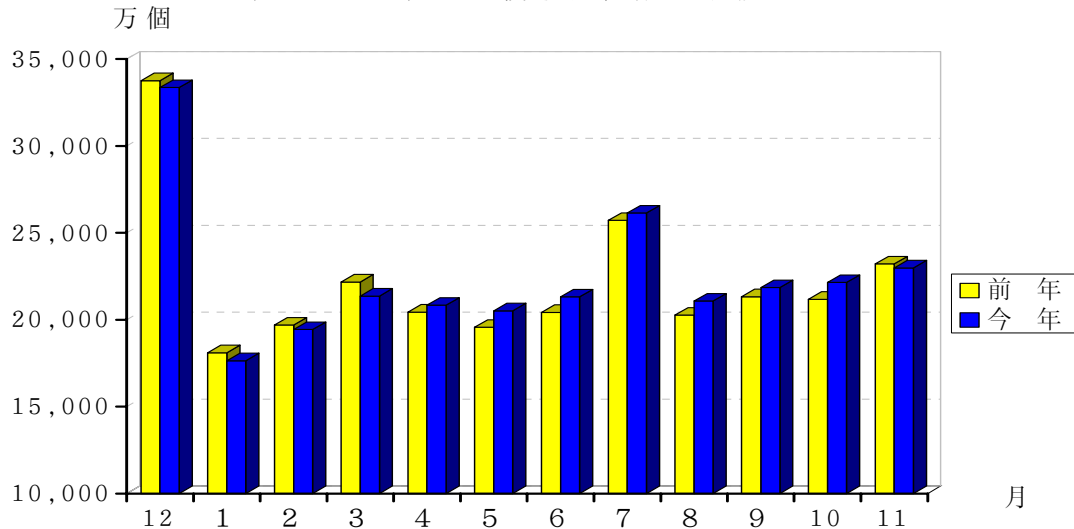
(図1-2) 26社の輸送トン数の前年同月比



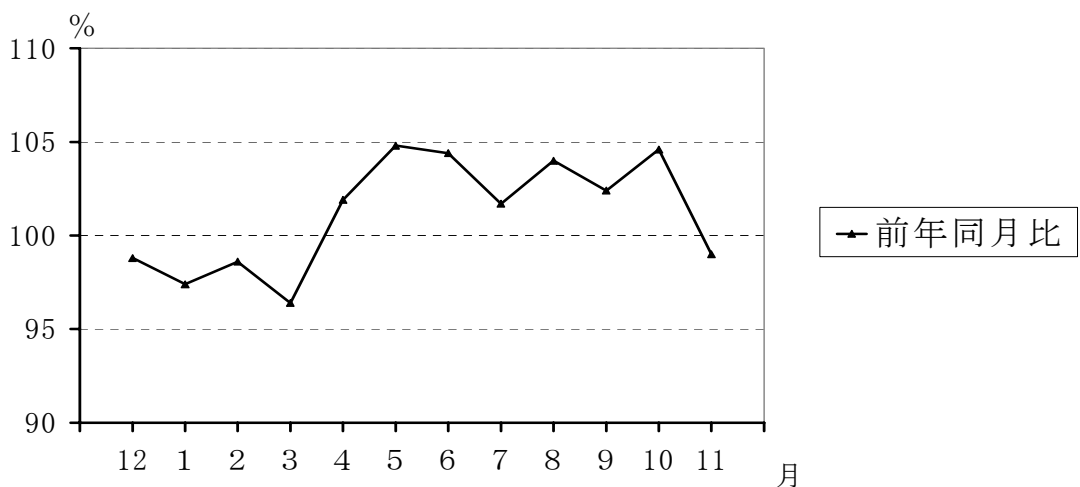
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、229,904千個で、前月と比べ、約839万個増加したため、前月比103.8%（季節調整済み 98.8%）、前年同月と比べると、約226万個減少したため、前年同月比 99.0%の実績であった。（図2 - 1、図2 - 2参照）

（図2 - 1）宅配便取扱個数の推移



（図2 - 2）宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、稼働日数が2.5日減少し、ほぼ全ての品目において減少傾向にあった。中でも、化学工業品が関東、北陸信越、近畿、中国において、工場・生産地、及び倉庫から出る貨物減、季節的需要減を主な理由として、日用品が全国において、工場・生産地、商社・問屋からの貨物減、季節的需要減を主な理由として減少している。

前年同月と比べると、全ての品目において減少傾向にあった。中でも、食料工業品が関東、北陸信越、近畿において、工場・生産地、及び倉庫から出る貨物減を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	増	変 らず	減 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	12	3	野菜、青果物、水産物	中国	4, 8	
						野菜、青果物	東北、関東、北陸信越、中国	4, 8	
	金属製品			13	7				
						建築用金属製品、工具	東北、北陸信越、近畿	4, 7	
	機械	1	1	15	4	機械部品			
						機械部品、自動車部品	関東、近畿	4	
	化学工業品			9	12	1			
						化学薬品、塗料、樹脂、石油製品	関東、北陸信越、近畿、中国	4, 7, 8	
	繊維工業品	1	1	11	10		関東	4	
						糸類、織物	関東	4	
	食料工業品		2	14	5	製造食品	関東	2, 4, 5, 7	
						加工食品	関東、北陸信越	4, 7, 8	
日用品		2	9	9	1		関東	7	
					一般貨物、身廻品、日用雑貨	全国	4, 5, 8		
その他		2	12	6		百貨店配送品	関東、大阪	2, 4, 5	
					宅配貨物	全国	8		
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		1	12	4	野菜	近畿	4	
						農産品、野菜、青果物	中国	4	
	金属製品		1	13	6				
						建築用金属製品、工具、電気製品	関東	4	
	機械			14	6				
						機械部品、家電品、照明器具	関東、大阪	4, 7	
	化学工業品		1	10	11		関東	7	
						化学薬品、塗料、樹脂	関東、大阪、中国	4	
	繊維工業品			10	13				
						織物、糸	関東、中国	4, 5	
	食料工業品		1	12	7	1		関東	
						加工食品、飲料	関東、北陸信越、近畿	4, 7	
日用品			8	13					
					一般貨物、日用雑貨、書籍	全国	4, 5, 9		
その他		2	10	8		百貨店配送品	関東、大阪	2, 4, 5, 7	
					宅配貨物	全国	2, 4, 8, 9		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 861社 / 調査対象事業者数 1,071社）の輸送量は、前年同月比 96.9%、前月比 94.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	96.9%	95.9%	94.5%	95.3%	100.5%	102.0%	96.3%	96.0%	97.5%	96.1%	99.3%
前 月 比	94.3%	91.3%	93.3%	93.8%	95.5%	96.2%	94.8%	94.7%	97.2%	96.4%	96.3%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、輸入の増加により「鉄鋼」、季節的需要として「石油製品」の増加があった。一方、土木建設工事の減少による「砂利・砂・石材」「セメント」等の減少、農産物輸送の終了により、対前月比 91.3%であった。対前年同月比は暖冬の影響により「その他の石油製品」の輸送が伸びなかった事から 95.9%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にあると思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、米は冷害により、リンゴ等の果物は台風による落下被害等で収穫量が平年を下回った。また、この時期は収穫期と冬期需要期の境目とも思われ、対前月比 93.3%、対前年同月比 94.5%であった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に下降傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、秋の収穫期終了による「穀物」「野菜・果物」「その他農産品」の減少が見られた。また、「金属製品」「機械」も減少しており、その結果、対前月比は 93.8%、対前年同月比も 95.3%と共に減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、公共工事の減少により「砂利・砂・石材」「その他の窯業品」が、収穫期の終了から米等の「穀物」が減少したため、対前月比は 95.5%となった。さらに、気候が温暖だった事による「その他の石油製品（灯油）」の需要が伸びなかった事や首都圏等の排ガス規制に伴う対処済み業者への移行もあった。その一方で、「木材」「セメント」等の輸送増があり、対前年同月比は100.5%とほぼ横ばいとなった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共に減少傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、先月に引き続き、首都圏での排ガス規制の影響で未対応事業者への依頼が低調であった事、季節の変わり目による輸送減等により、対前月比 96.2%と減少している。しかし、年末に向けて、お歳暮や大掃除等に関係する「日用品」の輸送が目立った事から、対前年同月比は 102.0%と増加した。今後の輸送見通しは、次月は横ばい、以降は減少傾向にある。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、季節的需要で「食料工業品」の輸送量が増加したものの、収穫期の終了による「穀物」、景気による影響で「鉄鋼」等の輸送減が目立ったため、対前月比 94.8%、対前年同月比 96.3%となった。今後の輸送見通しは、年末年始繁忙期に入り、百貨店貨物の増加等、季節的需要を見込めるものの、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向にあるものと思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、収穫期の終了により農産物の出荷減、関係して肥料類の輸送減が見られ、さらに土木工事の減少による「砂利・砂・石材」等の輸送の減少もあり、対前月比 94.7%となった。また、天候に恵まれ、「その他の石油製品」の需要が伸びなかった事や、輸送モードをトラックから船に変えた事業者も見受けられ、対前年同月比も 96.0%と減少している。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は減少傾向にあるものと思われる。</p>
四国	<p>本月の輸送は、みかん出荷の関係で「野菜・果物」、季節的需要で「その他の石油製品（灯油）」「日用品」の増加が見られたが、公共事業関係の低下により「機械」「セメント」、景気低迷により「鉄鋼」「金属製品」、工場・生産地等からの出荷減により「水産品」「紙・パルプ」等の減少が見られたため、対前年同月比 97.5%、対前月比 97.2%と共に減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向であるが、以降は減少傾向にあるものと思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、年末に向かって「日用品」「食料工業品」の輸送増があったものの、天候不順の影響で土木工事が低迷、作物の不作等により広範囲にわたる品目で輸送減が見られた。また、稼働日数の減少による輸送減もあり、対前月比 96.4%、対前年同月比 96.1%となった。今後の輸送見通しは、年末商戦による輸送増が見込まれているが、以降は減少傾向にある。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、切花（菊）の出荷需要増加により「その他の農産品」、また、米等の「穀物」の輸送需要も増加した。一方、引越需要の減少で「取り合わせ品」の輸送が減少、ビール・ジュース等の「食料工業品」が夏場の需要期を過ぎ、減少した。このため、対前月比 96.3%、対前年同月比 99.3%となった。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向であるが、以降は減少傾向と思われる。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	減	4	7	1	4	0	2	2	1	0	0	21
2. 野菜・果物	増	3	1	1	2	0	1	0	2	3	0	13
	減	4	3	1	1	0	0	0	1	5	0	15
3. その他の農産品	増	4	0	1	0	0	1	0	0	2	1	9
	減	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	7
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
	減	2	1	0	0	0	0	1	1	3	0	8
5. 水産品	増	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	減	2	1	0	0	1	1	0	1	2	0	8
6. 木材	増	1	1	0	1	0	0	1	0	4	0	8
	減	2	2	1	3	0	0	0	1	2	0	11
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 砂利・砂・石材	増	4	0	0	2	0	0	0	1	4	0	11
	減	7	2	0	2	0	0	6	0	4	0	21
11. 工業用非金属鉱物	増	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	4
	減	1	2	0	0	0	1	1	0	2	0	7
12. 鉄鋼	増	2	0	2	1	1	0	0	0	0	0	6
	減	1	3	1	0	1	2	3	1	0	0	12
13. 非鉄金属	増	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	減	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3
14. 金属製品	増	2	0	0	2	0	2	1	0	2	0	9
	減	1	0	2	1	1	1	1	1	2	0	10
15. 機械	増	0	1	1	0	0	1	2	0	4	1	10
	減	0	0	3	0	1	2	0	1	4	0	11
16. セメント	増	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	6
	減	4	3	0	1	1	1	1	1	4	0	16
17. その他の窯業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	1	2	0	2	0	0	0	0	2	0	7

運輸局		品目	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
			海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
			道			信							計
18. 揮 発 油	増	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	減	4	0	0	1	0	0	1	0	4	0	10	
19. その他の石油製品	増	3	6	0	1	1	0	0	2	0	0	13	
	減	0	0	1	2	1	1	0	0	1	0	6	
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	
21. 化学薬品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	
22. 化学肥料	増	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	
	減	1	0	0	1	0	0	2	0	1	0	5	
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	4	
	減	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	3	
24. 紙・パルプ	増	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	4	
	減	0	0	0	3	1	0	0	2	1	0	7	
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	減	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	3	
26. 食料工業品	増	0	2	2	2	0	2	0	0	4	1	13	
	減	4	5	2	0	0	0	0	0	9	3	23	
27. 日用品	増	0	0	1	0	4	2	0	1	3	0	11	
	減	3	1	0	0	1	2	0	0	4	0	11	
28. その他の製造工業品	増	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3	
	減	0	3	0	0	1	0	0	0	1	0	5	
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
31. 動植物性飼・肥料	増	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	4	
	減	1	1	2	0	0	0	1	0	1	0	6	
32. 廃棄物	増	1	0	1	0	0	1	0	0	3	0	6	
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	4	
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
34. 取り合せ品	増	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	4	
	減	0	1	1	1	0	0	0	0	3	2	8	
35. その他	増	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	